

CAMPUS 八戸学院

vol.74

八戸学院野辺地西高校サッカー部
青森県高校総体で初優勝！

八戸学院地域連携研究センターの主な事業



八戸学院大学 むつ下北キャンパス開設セレモニーを開催



祝辞を述べる山本知也むつ市長



新入生を代表して誓いの言葉を述べる越膳ル花さん

下北地域の看護師養成に向けて開設した、八戸学院大学むつ下北キャンパスの開設セレモニーが4月26日(土)に行われ、参加した関係者約50名が祝福しました。

開設セレモニーでは、小林学長が「卒業後、この地域の医療体制の充実のために活躍する日を迎えられることを心から祈っています。」と挨拶しました。続いて、山本知也むつ市長から「卒業後は地域の医療を守る立場になると思うので、地域の患者さんに寄り添う気持ちをこの4年間で養って欲しい。」と祝辞をいただいた後、第1期生を代表して越膳ル花さんが「4年間、主体的に学問に励み、誠実で信頼され、むつ下北地域に貢献できる看護師になります。」と力強い誓いの言葉を述べました。

CONTENTS

- 3 八戸学院大学
むつ下北キャンパス開設セレモニーを開催
- 4 令和7年4月 八戸学院大学
「むつ下北キャンパス」開設！！
- 6 八戸学院野辺地西高校サッカー部
青森県高校総体で初優勝！
- 8 八戸学院地域連携研究センターの主な事業
- 10 八戸学院TOPICS
- 14 ステラが行く
- 15 ステラ・フォーカス
- 16 八戸学院光星高等学校の卒業証書授与式・入学式
- 18 「八戸学院野辺地西高等学校」歴史を紡ぐ

CAMPUS 八戸学院

vol.74



表紙

ブライフーズスタジアムで行われた青森県高校総体男子サッカー競技の決勝で、青森山田高校とのPK戦を6-5で制して優勝した瞬間。
(6～7ページに関連記事)

建学の精神

「神を敬し、人を愛する」

カトリックの精神に則る道徳教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。(寄附行為 第3条)

短大 広さ350㎡の多目的ホールが完成！

6月11日(水)、本学幼児保育学科棟に新設された多目的ホールの完成セレモニーが行われ、関係者約30名と系列幼稚園の園児51名が出席しました。

セレモニーでは、杉山学長が「皆様のご支援のおかげで無事改修工事を終えた。これからは新しい歴史を刻んでいきたい。」と謝辞が述べられ、園児たちの歌で完成を祝いました。

多目的ホールは広さ350㎡の開放的な空間で、今後は講義や学生の活動、系列幼稚園のイベントなどで使用していく予定です。



- 八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
- 八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
- むつ下北キャンパス
TEL 0175-33-4190
- 八戸学院地域連携研究センター
八戸学院健康・スポーツ科学研究所
TEL 0178-25-2789
- 八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
- 八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
- 八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
- 八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
- 八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
- 八戸学院第二しのめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

<https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>

令和7年4月 八戸学院大学 「むつ下北キャンパス」開設!!

むつ下北キャンパスは、八戸学院大学健康医療学部看護学科に特化したキャンパスで、令和7年4月に開設されました。今年度は1期生11名が入学し、美保野キャンパスとのオンラインによる講義が週3回行われています。また、八戸市にある美保野キャンパスで対面による講義も週2回行う他、臨地実習はむつ総合病院やむつ市内の施設等で行う予定です。

このキャンパスでは、看護師・保健師国家試験受験資格取得を目指す学生を受け入れ、下北地域の保健医療活動や健康増進等に看護の実践者として貢献できる人材を育成していきます。



むつ下北キャンパス

〒035-0071
青森県むつ市小川町1丁目14-31
TEL.0175-33-4190

むつ総合病院 修学資金貸与制度あり

対象は八戸学院大学むつ下北キャンパスに入学する看護学生で、将来むつ総合病院に看護師として勤務しようとする方。



安心して授業ができるように、事務職員2名がサポートしています。



実習室でベッドメイキングの練習中!



空き時間に学習室で復習をする学生も。



大型モニターを使用して、美保野キャンパスとのオンラインによる講義を受けます。



① PK直前、ボールに祈りを込める阿部亮太
(野辺地町立野辺地中学校出身)

② 勝利の瞬間、喜びを爆発させる選手・コーチ



③ 念願の優勝旗を手に、万感の思いの選手たち

④ 選手たちから胴上げされる三上晃監督



八戸学院 野辺地西高校サッカー部 青森県高校総体で 初優勝!

6月2日(月)、青森県高校総体男子サッカー競技の決勝がプライフーズスタジアムで行われ、野辺地西高校は青森山田高校を破り、初優勝を果たしました。

野辺地西高校は、これまで何度も青森山田高校の壁にはね返されてきましたが、今回の決勝では1-1で決着がつかず、PK戦を6-5で制して優勝しました。青森県代表として、7月26日(土)から福島県で行われる全国高校総体に出場します。



監督 三上 晃

幾度となく跳ね返され続けてきた絶対王者の牙城を崩す事が出来て素直にうれしいです。選手たちが全国大会のステージに進めることに大きな喜びを感じます。また、これまで一緒に優勝を目指して頑張ってくれた卒業生や、その保護者の皆さんの願いがようやく叶って、非常に良かったなと思いました。先輩たちが決勝まで行くことをスタンダードにしてくれたので、今の選手はまずそこに行つて青森山田高校と勝負する、さらにそこで歴史を変えろということをやろうと目標にやってきましたので、決勝という舞台でも浮き足立たなくなりましたし、そういった積み重ねがまさに今回の結果に繋がりました。関わった人たちすべての方々に感謝と祝福をしたいと思います。

ありがとうございます。そして、おめでとございいます。



キャプテン 藤田 律
(八戸市立白銀南中学校出身)

優勝したあとは、すぐに実感が湧かなかったのですが、たくさんの方から「おめでとう」という言葉をもらって少しずつ実感が出てきました。私が入学した時は部員数が例年より少なく、周囲からは決勝にも行けないと言われて続けてきました。非常に苦しい2年間ではありましたが、私たちの代で優勝することができて、キャプテンとして諦めずにやってきて良かったと思いました。ここから東北大会、全国大会と続きますが、どちらも優勝を目指して、チームとして強くなっていきたいと思っています。八戸学院野辺地西高校の名前を全国に広めていけるように、また、日々の練習から成長できるように一層頑張っていきます。

優勝したあとは、すぐに実感が湧かなかったのですが、たくさんの方から「おめでとう」という言葉をもらって少しずつ実感が出てきました。私が入学した時は部員数が例年より少なく、周囲からは決勝にも行けないと言われて続けてきました。非常に苦しい2年間ではありましたが、私たちの代で優勝することができて、キャプテンとして諦めずにやってきて良かったと思いました。ここから東北大会、全国大会と続きますが、どちらも優勝を目指して、チームとして強くなっていきたいと思っています。八戸学院野辺地西高校の名前を全国に広めていけるように、また、日々の練習から成長できるように一層頑張っていきます。

3. まちなかラボ公開講座

地域連携研究センターまちなかラボにて、地域住民や学生との交流、学びの場の提供を目的に公開講座を実施しています。昨年度は日本政策金融公庫の人的資源提供により、創業・事業承継講座や当センター所属の福田教授による法の最先端講座として、「自動運転を考える」「アメリカ法を学ぶ」を開講しました。今年度は4月に、元NHKエグゼクティブプロデューサーの小泉公二氏を講師に「NHKと歩んだところ旅」、元三井住友銀行の関向敏夫氏を講師に「『メガバンクと八戸』～私のメガバンク苦労話～」の各講座を開講しました。5月はフランス人研修生による「フランスってどんな国？」「八戸ってどんな街？～フランス人の6か月～」をテーマに開講しました。



4. 大人のためのスピードスケート教室

八戸市主催の「大人のためのスピードスケート教室」を、八戸市より委託を受け開催しています。八戸学院大学スピードスケート部の選手と指導者がそれぞれのレベルに合わせてコーチングし、経験者も、未経験者もスピードスケート競技を体験する機会を提供しています。



今年度の新たな活動と展望について

八戸学院地域連携研究センター長 福田 弥夫

今年度の新規事業として、八戸市美術館の2階にある「八戸学院まちなかラボ」を活用して、八戸にゆかりのある方々をお招きし、コーヒーを飲みながらお話を聞きそして語り合う、公開講座「Wednesday Night Café」をスタートいたしました。また、本学の先生方に専門分野について語っていただく、「地連研公開講座」も展開の予定です。この「まちなかラボ」を「八戸の知」、「八戸学院の知」の発信場所とし、美術館を「美」と「知」の空間へとデザインできればと思います。これらの公開講座は、あおり県民カレッジの単位認定対象にもなります。また、八戸市と階上町の協力を得て、スポーツを活用した健康増進のプログラムも新展開の予定です。八戸学院地域連携研究センターは、これまでも地元自治体や企業あるいは団体と連携し、各種の事業を展開してきましたが、これまで以上に密な連携関係のもと、八戸を中心とする地域の課題解決へ積極的に協力して参りたいと考えています。

八戸学院地域連携研究センターの主な事業

1. 大学資産を活用したアート学び事業

八戸市美術館の特徴である「アートの学び」の具現化に向けて、大学が有する専門性と美術館が有するアートの専門性を融合させ、新たな価値や活動を生み出す「アートの学び」の提供により、人材育成や地域経済の活性化に関する以下の事業を実施しています。



(1) 高等教育機関のアートセミナー事業

誰もが気軽に訪れることができる美術館を考えることを目的に、八戸学院大学、八戸学院大学短期大学部、八戸工業大学、八戸工業高等専門学校の教員が講師となり、美術とは異なる分野の教員を講師とするイベントを開催しています。

(2) アートマネジメント事業

芸術・文化活動と社会をつなぐために、業務もしくは方法論やシステムについて学ぶ講座を開催し、学生と社会人が交流して様々な課題や研究テーマについてディスカッションする場を設けています。今年度は、9月と10月に開催を予定しています。

(3) アート × 幼児教育

子育て世代が美術館に気軽に来館できる機会と、学生の実践的な学びの機会を創出するため、美術館の展示会の会期中、「八戸学院まちなかラボ」に、保育士を目指している学生が運営する託児ルームを開設しています。また、小さな子供とその家族で交流し、遊びからアートの創造に繋がるきっかけになる、わんぱくを開催しています。



2. 防災士養成講座



災害に対する基本的な知識と、自らの身は自らで守るための技術を持った地域住民を育成するために防災士養成講座を開講しています。この講座が、災害が発生したときに、家庭はもちろん、地域や職場等において、人々の生命や財産に関わる被害が少しでも軽減できるよう、現場で実際に役に立つ知識と技術を身につけられる機会になることを願っています。今年度は、9月20日(土)・21日(日)に開講を予定しています。

短大 短大生とアパレル会社がスカーフを共同開発

幼児保育学科とアパレル会社「Mami」が共同で商品開発に取り組んできたスカーフ「scarFFit+（スカーフィット）」が商品化され、デザインに関わった学生たちへの贈呈式が行われました。

このスカーフは、昨年、幼児保育学科の教員が考案したデザインを基に幼児保育学科の1年生（現2年生）が「デザイン基礎」の講義で配置やカラーリングが行われたもので、全4種類のデザインには菊の花や八戸のイメージがデザインされています。

贈呈式に参加した学生たちはスカーフを手「明るく華やかなデザインで気持ちがすごく上がる」と述べていました。
※この商品開発は八戸学院地域連携研究センターの地域連事業の一環として行われたものです。



短大 2学科合同「マナー講座」を開催 [5/21]

幼児保育学科および介護福祉学科の2年生を対象に、2学科合同の「マナー講座」が開催され、就職活動を控えた学生たちが、社会人として基本的なマナーについて学びました。

当日は、株式会社コナカ様より「第一印象を整える身だしなみ」について、ポーラ化粧品様からは「面接時に好印象を与え、自身が輝くメイク術」についてご指導いただき、スーツの着こなしや選び方、面接時にふさわしいメイクのポイントなど、実践的な内容を含む充実した講座となりました。

プロの講師による実演やアドバイスに真剣に聞き入り、ネクタイの結び方やメイクの実習を通して理解を深めた学生からは、「実際に体験しながら学べたのが良かった」「社会人になるための心構えができた」といった前向きな感想が寄せられました。

本講座は、今後の就職活動に向けて自信を持ち、一歩踏み出すための貴重な機会となりました。



大学

ボウリング交流会を開催 [5/23]

学友会と学生会主催によるボウリング交流会が行われ、参加した学生・教員40名が交流を深めました。小林学長の始球式でボウリング大会がスタート。ゲーム中は、好プレーや珍プレーに歓声が上がりました。終了後の表彰式では上位入賞者への表彰の他、豪華景品が当たる抽選会も行われ、楽しい時間を過ごしました。

小林学長も得意のボウリングで学生達と交流を深めました。



ストライクを決めると周りもガッツポーズで答えます。

大学 花に新たな価値を～フラワーロスから広がるまちづくりの可能性～

地域経営学科の加来ゼミ・川守田ゼミは、廃棄予定の花に付加価値を与え、体験を通じてアップサイクルする「フラワーロスプロジェクト」に取り組み、八戸市主催の「学生＆高校生まちづくりコンペティション2024」で特別賞を受賞しました。プロジェクトでは、三八地域の「フラワーロス」についてヒアリング調査等を実施し、はちがくフェスで「フラワーロス」を使用したバスボム作り体験やレジンアート、キャンドル作成を行いました。今回のプロジェクトの実施にあたり、階上町の花屋である「草花や花大」さん、名久井農業高校、八戸に住むフランス人との連携により、多文化共創による地域のにぎわい創出に大きく貢献しました。学生たちは課題の発見から企画立案、実施、検証まで主体的に取り組み、地域からも高い評価を得ることができました。この成果を踏まえ、今年度も活動を継続し、地域資源を活かしたビジネスチャンスの可能性をさらに検証し、持続可能な地域づくりに向けて挑戦を続けていきたいと思っています。



大学 宣誓式を実施～決意を新たに～ [5/10]



看護学科の第9回宣誓式が行われ、来賓や保護者、教職員に見守られながら、2年生43名が看護の道を進む決意を新たにしました。式典では、宣誓者がろうそくを灯し「宣誓の詞」を斉唱。小林学長は「ともしたろうそくの灯りのように、患者に温かく寄り添い、地域を明るく照らす力になってほしい」と挨拶をし、宣誓者を代表して佐々木彩さんが「人々の命と暮らしを守るため、これからも学び・考え行動したい。仲間と支え合いながら、思い描く未来を目指していきたい」と誓いました。

式典後には「One Feels」の佐々木三之代表による記念講演が行われ、学生たちはメモと取るなど真剣に耳を傾けました。

最後はみんな笑顔で記念撮影。



表彰式終了後の抽選会。番号が呼ばれる度に歓声とため息が。



女子学生も多数参加！男女隔てなくできるのがボウリングの魅力です。



野西高 オープンスクール・教育資金講話を開催 [4/25]



今年度開催したオープンスクールには、野辺地町教育委員会や学校評議員の方々、保護者の皆様が多数来校され、授業参観などを通して本校の教育活動をご覧いただきました。また、金融経済教育推進機構より菅原伊佐雄氏を講師にお招きし、教育資金講話を実施しました。3年生全員と保護者を対象に、進学後のマネープラン、奨学金の活用について詳しくお話をいただきました。受講した生徒からは、「貸与型の奨学金は自分自身が借りて、いずれ返済することを自覚して活用することが大切であると学びました」といった感想が出ていました。

野西高 空手道部が女子団体組手で2大会優勝 [4/26県高校春季大会、5/31～6/2県高校総体]

空手道部は県高校春季大会女子団体組手において、10大会ぶり10回目の優勝を遂げ、続く県高校総体でも女子団体組手での優勝をはじめ、男子団体組手3位、個人組手優勝および2位などの素晴らしい結果となりました。



県高校春季大会



県高校総体

4月の県高校春季大会女子団体組手で優勝し、優勝旗を手にすることができたことを本当に嬉しく思います。私たちは個人で結果を残すことはもちろんですが、団体が優勝することをずっと目標にしてきました。

6月の県高校総体でも女子団体組手で優勝したことで、東北大会およびインターハイの出場が決まりました。一人ひとりが目標を高く持ち、互いに刺激合いながら日々練習に取り組んできたことが結果につながったと思います。全国の舞台でも女子・男子ともに一丸となって、より一層頑張ります。

3年2組 蛭沢 萌那瑚

野西高 教育実習 一再び母校で学ぶ [5/9～29]

2名のOBが、母校での3週間の教育実習を無事に終えました。生徒とコミュニケーションを取りながら、授業の指導法からホームルーム運営、部活動指導など、教育現場での実践的な学びを深め、大きく成長して大学に戻りました。

今回、八戸学院大学に進学した木村大輝さんに教育実習を終えた感想を伺いました。



「教育実習を終えて」

教育実習を通して毎日変化する生徒の状況や心情に気を配りながら、コミュニケーションを取ったり、関わったりすることの難しさを実感することができました。また、授業や部活動での楽しそうな生徒の表情を見て、やりがいや楽しさを経験することができました。3週間という短い期間でしたが、色々な経験を通して成長することができたと思います。実習生として受け入れてくださり、忙しい中で指導をしてくださった先生方にとっても感謝しています。本当にありがとうございました。

八戸学院大学健康医療学部人間健康学科4年 木村 大輝

光星高 世界のステージで大躍進! 頂点をめざして壁に挑む



本校3年生の関川愛音さんは、スポーツクライミング(ボルダー)の日本代表として今年もワールドカップに出場しました。6大会中5大会で決勝に進み、プラハ大会では3位に輝きました。そして、年間総合では昨年の12位から4位へと大躍進を果たし、世界選手権出場の期待も高まっています。国内大会での活躍も顕著で、昨年末の「THE 1」では日本人最高順位の2位、今年4月の「The



North Face Cup2025」では3連覇という成績でした。関川さんは、「周りの人たちの理解と応援とサポートのおかげで“世界の壁”への挑戦に全力を注げます。その恩返しとして“光星”の名を轟かせたい!」と感謝の言葉を寄せています。

光星高 交通安全講話を実施 [4/30]

全校生徒を対象に交通安全教室が実施されました。八戸警察署交通課の方を講師にお迎えし、八戸市内の事故発生状況や自転車の乗り方など交通安全についてお話を伺いました。特に、令和8年4月から全国で導入される、自転車の交通違反に対する反則金制度について詳しく説明していただきました。講話を聞いた生徒から「講話を通して、交通ルールの大切さを改めて実感した。日頃の行動を見直そうと思った。」「交通ルールを守ることで自分の命、周りの人の命を守りたい」などの感想が寄せられ、有意義な講話となりました。



光星高 中国人留学生、日本での生活に慣れるため、ただ今奮闘中!



今年の3月に6名の中国人留学生が大学進学目標を達成し、4月には3名の中国人が留学生生活をスタートさせました。新しい制服に身を包み高校玄関前に立つ彼らは、左から武京宣さん(河南省安陽市出身/1年)、陳路祥さん(広東省惠州市出身/3年)、張力文さん(江蘇省蘇州市出身/1年)です。3名は日本語能力を高めるために、朝と放課後の学習に励んでいます。また、留学生生活を充実させるために部活動に励んだり、八戸を知るために蕪嶋まつりや館鼻岸壁朝市や花見に出かけたりと、充実した時間を過ごしています。そして、クラスや部活動での仲間や寮生たちのさりげないサポートに温かさを感じています。

八戸学院幼稚園

「親子レクリエーション」短大校舎でステラを探せ！



例年親子レクリエーションは秋の実施でしたが、今年は1学期の5月10日(土)に行いました。会場は短期大学部の校舎で、日頃から連携事業で園児が活動している環境を保護者の皆さまにご紹介するとともに、リニューアルされた校舎の見学なども兼ねての開催になりました。当日はあいにくの雨模様でしたが、園児たちは元気いっぱいの様子で開会式と写真撮影のあとメイン会場の多目的ホールに移動し、早速親子でのレクリエーションに入りました。

最初は家族みんなで「ラーメン体操」に挑戦し、心と身体もほぐれたところで伝言ゲームやじゃんけんゲームを楽しみました。その後はメインイベントの「ステラを探せ！」。校舎内に隠れているステラをすべて見つけるとメダルがもらえるゲームで、園児たちはあちこち探検しながら「あっ、あったー」「こっちはないなあ」と歓声をあげるなど、楽しそうに取り組んでいました。

お昼は家族そろってお弁当を食べ、帰りにはお土産ももらい、思い出に残る一日になったようです。



幼稚園の朝は、静かです。早番の先生が幼稚園で子どもたちの登園を待っている、一人二人と、保護者に送られて玄関のドアを開けて入ってきます。「おはようございます！」と元気よく入ってくる子どもや、お母さんにくっついて静かに入ってくる子どもなど、様々なスタイルで1日が始まります。スクールバスで登園する子どもたちは、大きな声で「おはようございます！」と入ってきます。そして、出迎えの先生と会話をしながらお部屋に入ると、靴からコップやタオルを出して所定の場所に置き、出席シールを貼ってから、



八戸学院聖アンナ幼稚園

手のひらの中の花たち

「おはようございます！」幼稚園の朝の玄関には、元気なごあいさつと一緒に、かわいらしいお花を差し出してくれる小さな手があります。桜の花びら、スイセン、ムスカリ、たんぽぽ…など、お家の庭から小さな花束にして持ってきてくれたり、登園途中の道端から摘んで大事に持ってきてくれます。



お部屋に入ると、自分で水切りをして小さな花瓶に挿し、飾る場所を自分で決める子どももいます。周りの子

どもたちは、その様子を真剣に、また憧れを持って見つめています。お花を「きれい」「かわいい」と感じたり、小さく儚いものを大事に扱ったりする優しい心が育ってくれていると感じます。

植物や生き物など、子どもたちの心の成長に欠かせない大切なものに、私たち大人も心を寄せて過ごしていきたいと思うのです。



八戸学院第二しののめ幼稚園

バケツ稲



5月23日(金)、八戸農業協同組合(JA)様のご指導のもと、2回目となる稲作りに年長・年中組が挑戦！「この葉っぱってなに？」の質問からスタートした子どもたちは、「これがお米になるの？本当？」と不思議そうに見つめていました。

まずは、森林の黒土などを混ぜた土を使用し、泥土を作りました。木や葉っぱの混ざった土に触れることが初めての子どもや保護者が多く、「つばつばがある～。何か入ってるー！」と驚きながらも、泥団子を作るように一生懸命混ぜる様子が見られました。「わぁ～泥まみれ～。何年ぶりだろう。久しぶりだなあ～」と子どもたちよりも目を輝かせ、取

り組む保護者もいました。

今回は、食育の一環として取り組み、親子で楽しみながらお米について学ぶことができました。



八戸学院第二しののめ幼稚園 『毎日を健やかに過ごす環境』

それぞれの好きな玩具で遊び始めます。10時からの設定保育の前に、「おはよう」の歌を元気に歌って朝の会をします。担任の先生からのお話もみんな揃って聞いています。11時半には、給食の準備をします。今年度は、ひよこ組のお部屋がランチルームに変身して、みんな揃って給食をいただきます。給食のあとは、お迎えまでクラスで遊んだり、園庭で遊んだりして過ごします。



一見、普通に見える日々の生活ですが、子どもたち一人ひとり、毎日少しずつ成長していることが感じられます。昨日までできなかったことができるようになる、そんな成長を保護者とともに喜び合うことがたくさんあります。子どもは一人ひとり個性があり、幼稚園という場所で過ごしながら成長していくのを見守っている私たち教員は、その時間をとても尊いものだと感じています。また、幼稚園での生活が、子どもの将来の生活の基盤になると考え、子どもたちと過ごす毎日をもとても大切にしています。



職員 ファイル

家族の影響で小学校4年生からバスケットボールを始めました。

八戸学院大学4年の12月に特別指定選手として青森ワッツに加入して、6年間プロ選手として現役生活を送ってきました。

大学生になると高校生までとは違い、激しいコンタクトや高いバスケットボールIQが必要になってきます。技術面・戦術面はもちろんですが、バスケットボールに対する姿勢、メンタル面も指導の一つとして選手たちに伝えていきたいと思っています。

「気持ちが変われば、行動が変わる」このことを少しずつ感じてもらい、勝ちにこだわることを普段から意識させ、ゲームライクに日々の練習を行えるように学生やスタッフ陣のサポートをしていきたいと思っています。

目標は毎年男女でインカレに出場することです。そして、プロの世界で活躍できる選手を育成するために、自分自身もバスケットボールについてたくさん勉強し、選手一人一人のポテンシャルを試合で引き出せるように指導していきます。

選手にとって、八戸学院大学に来て良かったと思える4年間にしていきたいと思っています。



試合のタイムアウト中に、相手のフォーメーションや自分たちがやらなければならない事をチーム全員で再確認中。



野里 惇貴

就職課
八戸学院大学 バスケットボール部
アシスタントコーチ

2016年12月 青森ワッツ加入(大学4年)
2017年 3月 八戸学院大学卒業
2025年 4月 八戸学院大学
バスケットボール部
アシスタントコーチに就任

2012年12月



高校生時代

2020年11月



青森ワッツ時代

八戸学院光星高等学校の 卒業証書授与式・入学式

卒業式 [3/1]

本校の卒業証書授与式では、吹奏楽部の迫力ある生演奏に合わせて卒業生294名が入場し、厳粛で感動的な式の最後には生徒全員で高らかに校歌を斉唱しました。

また、退場する際の各部活動の懸垂幕も魅力の一つです。この懸垂幕には、今までお世話になった先輩方へ最後の思いを伝える言葉がつづられています。



入学式 [4/7]

今年度は254名の入学が許可され、新入生は新たな一步を踏み出しました。

入学式でも、今年度第49回全国高等学校総合文化祭(7/26~7/31)に出場する吹奏楽部の生演奏に合わせて入退場し、迫力のある演奏に驚きながらも引き締まった表情が見られました。

希望と期待にあふれる新入生のこれからの活躍が楽しみです。





「八戸学院野辺地西高等学校」歴史を紡ぐ

学校法人光星学院 理事
八戸学院野辺地西高等学校 校長
橋場 保人

八戸から野辺地までの通勤途中に上北道から見える八甲田連峰は、4月中旬から下旬にかけてのこの時期が一番美しい。早朝の澄んだ青空に、山頂の真っ白い残雪を朝日に輝かせ聳え立つ。その八甲田連峰の景色を左に通り返ぎ、七戸北インターで降り、国道4号線を北へ15分くらい走ると野辺地の中心部に入るが、国道沿いに「八戸学院野辺地西高等学校」と書かれた濃紺の看板が立っている。そこを左折しておよそ1.6km先の高台、烏帽子岳の麓に本校は位置する。



光は温もりであり、希望を与える。八戸学院野辺地西高等学校は、ここに50年余り存在してきた。

昭和48年4月、本校は「光星学院野辺地工業高等学校」として誕生した。その前年の昭和47年10月31日付、青森県知事に提出した学校設置趣意書にはこう書かれている。

「今や経済大国日本も、次第に調和への矛盾をあらわし、前途用事を思わせる事態となりましたが、この矛盾を、是正して調和のある発展を恢復するには、科学の力にまっところ極めて大いなるものがあります。従って、次代を担う青少年教育の重要性も又、今日にまさるときはないと思います。然るにこのときに当り、本県上下二北地方の高校進学率は甚だ振るわず、この速やかなる打開とその振興、同地方の緊急にして重要な課題であります。

本学院は昨年夏、野辺地町町長山根恒次郎氏の要請を受け、且つ自らの教育機関としての使命に鑑み、同地に光星学院野辺地工業高等学校を設置して、上記事態の改善に当たることを決意した次第であります。同時にこの企画は、むつ小川原巨大開発実施の暁は、その各種企業のため中堅技術者を育成して、これに協力する義務を負うものであり更に、この学校は、同開発の先行施設として、開発要員の移入を容易にする役割を持つものであります。幸に同町は巨大開発地の表玄関に当たり且つ、同地方の交通の要衝であると共に文化の中心的位置を占め、ここに高等学校を設置することは如上の目的達成のため当を得ており、ひ

いては同地方の発展にも寄与するものであることを確信するものであります。

尚、同校の所在地は、野辺地町西方1キロの高台にあつて、風光眺望ともすぐれ、閑静にして空气清新、諸々の公害を遠くさげ、健康且つ衛生的で真に、勉学体育の理想境であり、やがて竣工する最新方式の学校施設と更に傑出した教員組織と相まって、その挙がるであろう教育効果は期して待つべきものがあると思います。 以上」

(原文のまま)



こうした背景のもとで「光星学院野辺地工業高等学校」は誕生していくわけですが、この辺のいきさつを、第二代理事長で、当時光星学院教育局長兼光星学院高等学校校長、中村キヤ先生は後にこう述べている。

「昭和40年頃は、野辺地から下北にかけて大勢の生徒達が八戸の光星学院高校に入学して来ていました。毎年地区PTAを開催してきましたが、ご父兄との、談話の中で『これからむつ・小川原開発事業によって大企業が進出してくるでしょう。その時、社長・幹部は東京から来るのは致し方ないが、地元の若い者、自分達の子供達は、日雇いではなく、せめて中堅幹部として入社させたい。何とか野辺地に工業高校を開設して貰えないか』というお話がありました。私は帰って早速に当時の理事長中村由太郎に此の旨報告しました。その後、時の町長山根恒次郎氏が招聘のためわざわざ由太郎宅をお訪ね下さり、『青森、八戸の中間にある野辺地町は、私学のエアポケットになっているから是非来て、高校を開設してほしい。』という有り難いおことばを下さり、光星学院の進出が決定したという経緯がありました」

「さらに当時の野辺地町教育長、若山好美氏は、

「議会では町長は、実業教育の緊急性とともに、中村氏の教育的情熱と高潔な人間に傾倒していることを力説したのである。折しもむつ小川原開発が始動し土地ブームのとき、二十町歩は大きな財産でした。価格競争もありましたが、地域の子弟を育てること、議会は満場一致で承認したのです。

明治維新は、勝海舟と西郷南洲の会談で、江戸を灰燼に帰することなく平穏裡に行われたのでありますが、これは、二人の人間のふれあいによ

るのです。このことと同様に、野工の創立は、中村、山根両氏がお互いに信頼し、人格を尊重し合った故と思われます」と記している。

創設者中村由太郎先生、町長山根恒次郎氏をはじめ、当時の高校を望むたくさんの方の熱き想いと幾多の困難を乗り越えた先に、本校が誕生したことを思うと胸が熱くなる。

こうして昭和48年4月15日、野辺地中学校体育館を借りて、第1回入学式が行われた。実は豪雪の影響で校舎完成が遅れ、予定よりも一週間遅れの入学式であった。この時、定員160人に対し新入生は281人、記念すべき第一回生である。

平成29年、当時町の学校教育課長であった横浜清隆氏は、赴任してきた私にこう語ったことがある。

「私は、青森工業のOBなんだが、野工に入学していれば第一回生だ。中学校の同級生もいるので夏休みだったか、日曜日だったか忘れたが、野工に遊びにいったことがある。びっくりしたのは、進んだ最新の機械があり、黒板に書き残されている授業の内容も、レベルの高いものだった。あれには本当に驚いた。今でも忘れない。」

これは決してお世辞ではないだろう。中村キヤ先生がこの頃に残している一文がある。

「文部省編集の『産業教育』誌に大変よく整備された工業高校の一例として取り上げられるという栄光に浴して、尊い歴史の一項に残されました。」

それから50数年、校名も「光星学院

野辺地西高等学校」を経て現在の「八戸学院野辺地西高等学校」となり、第一回生も70歳になろうとしている。

第一回生281人の入学生の一であり、そしてその後同窓会会長も務められた杉山正七氏は、創立20周年記念誌で後輩生徒に向かって語りかけている。

「今母校で学んでいる、後輩諸君に次の言葉を贈ります。後輩の皆さん、ひまわりの花のようになれ。精一杯、かんかと照りつける、太陽に向かって大きく胸を張って自信を持って生きてみようじゃないか。二度と来ない青春時代を、情性や、卑屈な態度で生きることなく、立ち塞がる困難にもめげず、真っ直ぐ太陽に向かって生きてみようじゃないか。燃えつきるまで、今を大切に、青春の後悔のないように、ひまわりの花のように太陽に向かって、伸び伸びと、真っ直ぐに生きようじゃないか。」

八戸学院野辺地西高等学校は、令和9年3月で野辺地での教育活動を終え、4月から五戸に校舎を移転し、新たな時代に向けて動き始める。

学び舎は変わるが、脈々と受け継がれてきた第一回生杉山氏に代表されるような熱き魂と先人たちが築いてきた歴史は永遠に消えることはない。

光星学院野辺地工業高校
「創立十周年記念誌」創立二十周年記念誌」
から一部引用





HACHINOHE GAKUIN CAMPUS SPOT

美保野キャンパス 学生を見守る「桜の木」



この桜の木は、1号館と2号館をつなぐ渡り廊下の2階の窓いっぱい、四季折々の美しい姿を見せてくれます。

特に春には、やわらかい陽光を浴びて咲き誇る桜の花々が窓辺を彩り、花の向こうに行き交う学生たちの笑顔を一層輝かせています。

美保野キャンパス

